

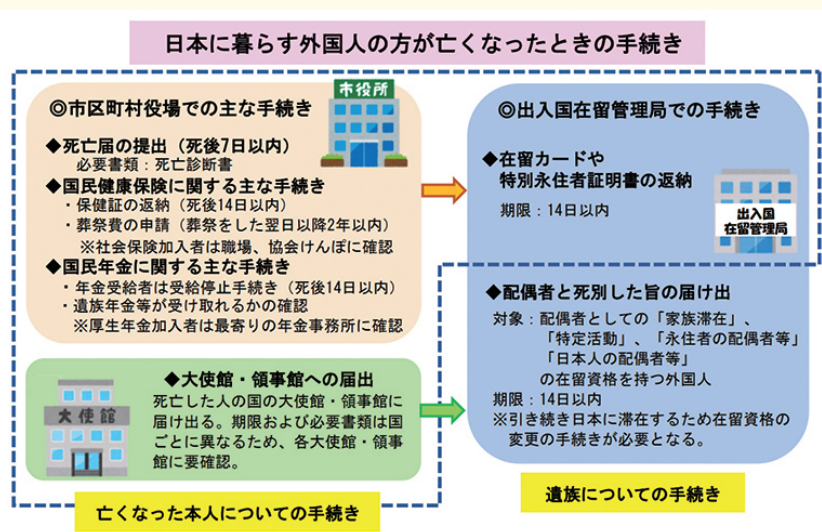
## 国際交流・多文化共生コーディネーター講座「様々な弔い方を知る」▶

愛知県には約28万人の外国人住民がお住まいで、在留期間に制限のない永住者、定住者が増加しており、今後日本で亡くなる方も多くなると考えられます。

今回の講座では、国や文化、宗教、習慣の違いによる亡くなった際の対応や、葬儀をはじめとした弔い方等について学びました。

最初に、外国の方が亡くなった時の対応方法などについて、ライフエンディングテクノロジー株式会社取締役の栗本喬一氏からお話いただきました。

日本に住む外国人が亡くなった際の市役所等での手続きは基本的には日本人と同じですが、その後の出入国在留管理局での手続きや大使館・領事館への届け出も必要です。手続きは国によって異なるため、各大使館・領事館に問い合わせることが必要ということでした。



▲当協会発行「相談員のための多文化ハンドブック～社会福祉編～」より抜粋

手続きとともに考えなくてはならないことは、葬儀等をどうすればよいのかということです。日本ではほぼ100%火葬ですが、世界的にみれば土葬の文化の方が多いと言われており、確認が必要となります。

また、日本で亡くなった場合、母国で弔いたいと思われるご遺族もいらっしゃいます。その場合、専門業者がご遺体を海外に運ぶだけでも約150～500万円の費用がかかってしまうことにも注意が必要とのことです。

講座の後半では、カトリック名古屋教区の松浦悟郎司教からキリスト教における弔い方・価値観、名古屋モスクのサラ・クレン好美理事から、ムスリムの弔い事情などについてお話いただきました。



▲講演後の質疑応答の様子  
講師の栗本氏(左)と松浦氏(右)



▲八事霊園(名古屋市)ムスリムのお墓  
※現在は八事での土葬は行っていない  
(写真提供:サラ氏)

キリスト教では、「復活」のために土葬をするという話を聞いたことはありませんか？

松浦司教によると、「死」というものは通過点に過ぎず、その通過点を通して永遠のいのち(救い)に至るといふ信仰があるそうです。よって、この世でどう生きたかが重要であり、どのような葬り方をしたかということは亡くなった方の救いには関係なく、土葬か火葬かは問題ではないとのことでした。ただ、救いのためにお互いが祈り合うことは大切なので、あらゆる機会を通して祈り続けるそうです。

イスラム教では、炎が地獄を連想させることや、来世での復活を信じることから、火葬は死者への追加刑として犯罪者がされることになっているとのことです。過去に、このことを知らず、遺族に確認しないまま火葬にしまい大きな問題となったことがあったそうです。

現在、日本でも土葬できる場所はいくつかありますが、実際に土葬ができるのか確認が必要とのことでした。(愛知県近隣では、静岡県、和歌山県)

松浦氏からもサラ氏からもお話があったのは、外国の方同士や宗教関係のコミュニティの連携が強いため、葬儀やご遺体の輸送等にお金がかかっても、周囲の方からの寄付で賄うことができたという事例が多いということでした。

名古屋モスクでは、ムスリムが亡くなった場合の手続き等を統括していますし、教会においても随時、弔いや葬儀等について窓口を開いていらっしゃるの、何かあった場合はご相談していただくと良いと思うとのことでした。

参加者からは、「自分の常識が一般的ではないことを知り、その宗教や文化的背景も知ることができた」というご意見や、「そもそもの価値観や死生観が違いすぎて、まずは知ることが大切だと気づいた」といったご感想のほか、活発な質疑もあり、満足度の高い講座となったと思います。

人の死生観は、文化や風習、宗教などによって様々です。各個人の弔いに対する考え方を尊重し、希望に沿った弔いができるとうれいでした。

## 「ベトナム語入門講座」を開催しました



当協会では、蒲郡国際交流協会との共催で、「ベトナム語入門講座」を開催しました。定員の2倍以上のお申込みをいただき大変好評だった昨年度に続き、2回目の開催です。

講師は、前回と同じくベトナム出身の原田美河さん。初日は、昨年度難しいというお声を沢山いただいた、ベトナム語のアルファベットと発音を重点的に学びました。ベトナム語のアルファベットは29文字あるという説明から始まり、11個の母音の発音練習と、26個の子音の発音練習を受講者全員で行いました。しかし、慣れないベトナム語の発音をずっとやっていると、だんだん体がこわばってきます。途中、講師のベトナム語の掛け声で、肩や頭のストレッチ体操をして、体をほぐしながらの練習となりました。

また、ベトナム語はあいさつ一つとっても、男性、女性、年配の方、同年代の人や若い人、年下の人、友達など、相手によって使う言葉が違います。そのため、ベトナム人は相手に失礼にならないように、初めて会った人に年齢を聞くそうです。むしろ年齢を聞かない方が失礼になるという講師の言葉に、受講者のみなさんもベトナムと日本の文化の違いに大いに納得していました。

そして最後に講師から、「ベトナム語の発音は、世界一難しいと言われていますが、文法は簡単です。とにかくベトナム語で何でも話しかけてください。間違っていたら、ベトナム人は直してくれます。」という心強いお言葉をいただきました。

今回もベトナム語学習の道のりは長いと感じた講座でしたが、受講者のみなさんがますますベトナムに興味を持っていただき、今後もベトナム語学習を続けていただけることを心から願っています。



▲講座の様子

## 親子向け多文化共生理解講座を開催しました



2022年12月17日に愛知県児童総合センターで、多文化共生理解講座「親子で多文化共生に触れてみよう！～オーストラリア編～」を開催しました。当日は、あいち国際理解教育ステーション代表の今枝明子氏と（公財）名古屋国際センターの職員であるアダム・シモンズ氏を講師にお招きし、23名の参加者がオーストラリアと多文化共生について楽しく学びました。

みなさんは、オーストラリアのクリスマスの様子を見たことがありますか？南半球のオーストラリアのクリスマスは夏なので、海で泳いだり、家族や知人と集まってバーベキューをしたりするそうです。ちなみに、オーストラリアではオージー・イングリッシュという独自の英語があり、バーベキューは“バービー（Barbie）”、クリスマスは“クリッシー（Chrissie）”と略して言います。

講座の中で本物のユーカリの葉を使い、リース作りも体験しました。参加した子どもたちは、リース作りや絵本・写真を通してオーストラリアの自然や文化に触れ、興味津々でした。

この講座を通じて、子どもたちがそれぞれの国によって文化・風習が異なることを知り、今後は互いを尊重しながら暮らすことのできる素敵な社会づくりを担っていただけるよう期待しています。



▲オーストラリアはどこかな？



▲クリスマスリースを制作中♪



## 産官連携により地域の日本語教室を支援します～外国人との共生を目指す愛知モデル～▶

当協会は今年度、愛知県経営者協会、一般社団法人中部経済連合会、愛知県と連携し、地元企業からボランティアを募り、地域の外国人児童・生徒を対象とした日本語教室を支援する活動を試行的に開始しました。日本語教室支援に興味を持っていただいた企業の方々に向け、西三河地域では2022年10月30日と11月5日に刈谷市で、尾張地域では2023年1月21日に名古屋市で、活動を始めるにあたっての研修と、参加者と教室とを繋げるマッチングイベントを開催しました。

西三河地域では企業4社から41人と4つの日本語教室、尾張地域では企業5社から44人と5つの教室と多くの方々にご参加いただきました。研修では、あいち地域日本語教育推進センター総括コーディネーターの千葉月香氏に、愛知県に住む外国人と外国人児童生徒の状況や地域の日本語教室の活動についてご講義いただきました。マッチングイベントでは、地域の日本語教室の代表の方に、教室の概要や活動の様子などをお話しいただいた後、小グループに分かれて、それぞれの教室の方に活動するうえで疑問に思うこと、気になっていることを参加者が直接質問する時間を設けました。皆さん熱心に講義に耳を傾け、意見を共有したり、教室の方々に活動に向けた具体的な質問をされたりする様子から、高い関心を持って参加していることが感じられました。

今回、研修・マッチングに参加したほとんどの方は、後日、教室を見学したり、活動体験をしていただき、なかには、継続して教室のボランティアとして活動していただいている方もいらっしゃいます。このような方の活動動機には、「外国の子どもの教育に興味を持っていた」、「自身の海外赴任での経験から外国の方に恩返しをしたいと考えていた」、などの他に、「教室ボランティアの方の活動に対する熱い想いに心打たれた」というものもありました。

実際に活動してみた参加者からは、「担当した子どもはまだ日本語レベルが低い子だったが、自分の教える言葉を一生懸命覚えようとしてくれる姿にとっても嬉しくなった」、「音読や漢字の書き取りの手伝いなどしかできないが、子どものために活動できるのは楽しい」、「仕事や家庭の都合で不定期の参加になってしまうが、教室ではあたたかく迎えてもらってありがたい」などの感想をいただいています。

また、教室の代表者の方からも、「見学に来られた方がほとんどそのまま教室のボランティアとして登録してもらえて、本当に助かっている」、「講師不足を解消できたので、これからも教室活動が続けられる」といった声をいただいています。

この研修・マッチングイベントを通して地元企業の多くの方に、日本語習得に困っている外国につながるを持つ子どもがいること、またこのような子どもを支援する日本語教室が地域にあることを知り、多文化共生について関心を寄せていただける機会になったと思います。今後も企業の方々と教室とを繋げ、様々なかたちでの日本語教室のサポート、ひいては外国につながる子どもの支援をしていきたいと考えています。



▲千葉氏による研修の様子



▲参加者の質問に答える日本語教室ボランティア



いりょう つうやく  
**あいち医療通訳システム**

アイミス

**AiMIS****病院で通訳などが利用できます。**

Interpretation services are available at participating hospitals

可在医院使用口译服务

Disponibilizamos o serviço de tradução nas entidades hospitalares

Tenemos disponible servicio de interpretación médica

Interpreter ay magagamit sa ospital

対応言語: English・中国語・Português・Español・Filipino

※その他の言語については、下のウェブページで確認してください。

**あいち医療通訳システム推進協議会事務局**

☎ 052-954-6138 平日/Weekdays 9:00~17:30

<http://www.aichi-iryou-tsu-yaku-system.com>